

日本共産党 和歌山市委員長

ひめだ高松三ノエ

No.1422

23.2.7

10日間のリフレッシュ休暇?!

先週の月曜日の回復のペースがコロナに。接触の有無に関わらず「回復人は濃厚接触者」となり自宅待機しましたが発熱等はまったくありません。息子は先週の火曜日に職場復帰しました。私は念のため先週の木曜日から復帰しました。先週のみだニュースを臨時休刊したことをお知らせします。

まもなく2月定例会

2月13日(月)午前10時定例会議の日程を決定する議案の審議が午後1時定例会議の議案が開かれるとの通知がなされたので、2月13日(月)午後6時30分、和歌山市議会議堂で20日(月)から始まる見込みです。和歌山市議会議堂は2月議会の各会派に代わって代表質問が行われ、17日(土)は和歌山放送の番組として放送されます。

4候補そろい踏み

2月4日(土)午前10時半より松坂みずみ・井本ゆういち事務所開きが行われました。風をなぐ日でしたが暖かい絶好の事務所開きとなりました。事務所は道路に面してガラス窓が美しい。



(左から) 中村あさと、松坂みずみ、井本ゆういち、森下さち子

松坂・井本事務所開き

2月4日(土)午前10時半より松坂みずみ・井本ゆういち事務所開きが行われました。風をなぐ日でしたが暖かい絶好の事務所開きとなりました。事務所は道路に面してガラス窓が美しい。

今週のフワ〜人々

異次元の少子化対策2

岸田首相の打ち出した「異次元の少子化対策」について、国会では自民党の技術幹事長が代表質問で旧選挙区での所得限度撤廃を主張したにも関わらず、自民党からは撤廃反対の声があがって揺れている。この声があがって揺れている。この声があがって揺れている。

二念にあいさつ。4候補に迷入をもらって早速放映。1月29日の中村あさと事務所開きは、参加を呼びかけた私が「濃厚接触者」となり欠席してしまいました。が岸田首相が息子を秘書にしたのは、特別のことで、おまじだくネットでも紹介されています。前回のフワ〜の人々は岸田首相の「異次元の少子化対策」は異次元ではなく二次元的に描いたもので、少子化対策の目玉は自分たちのための特別の手当だけ。この声があがって揺れている。この声があがって揺れている。



ひめだ高松

フワ〜の人々 <1205>

自民党の技術幹事長が代表質問で旧選挙区での所得限度撤廃を主張したにも関わらず、自民党からは撤廃反対の声があがって揺れている。この声があがって揺れている。

「一つの案を見たとき、認識している。」

「一方で、子育て支援の重要性を訴える。特別の子ども手当を拡充する。」

「これが「異次元の少子化対策」の目玉とは?! 噂がたしい。」

ホント、本ってあつてんか

武田あつし、伊藤亜衣著「ある行旅死亡人の物語」(毎日新聞出版)は、共同通信大阪社会部の記者である西氏が尼崎市のアパートで孤独死した女性の身元調査で見つけた真実の記録です。行旅死亡人とは、病气や行先倒れ、自殺等でとくなり名前や住所など身元が判明せず、引き取り人不明の死者を表す法律用語です。法

律により、死亡場所を管轄する自治体が火葬。死亡人の身体的特徴や発見時の状況、所持品などを官報に公表し、引き取り手を待ちます。孤独死した女性は、3千482万円余の現金を所持しながら古い文化住宅の一室で仮名で暮らしてました。記事になるかならないか分からないため自身と自らの休暇を使いながら、

警察も探偵もたどり着けなかった真実を解明しようとする記者の執念とその取材力には驚きです。

日本共産党 演説会

2月 23日 祝 14時~

和歌山城ホール大ホール

こくた意ニ 衆議院議員が

お話しします

和歌山市の 市議 5 名

紀美野の 町議 2 名 全 7 人 聴き 311 名

ぜひ、おいください!

井本ゆういち

住民パワー

1月27日のJRの無入駅調査を、松坂ゆきみさんや数田国會議事事務所とともに行いました。また、2月1日には南三河センター横の中津三のガード

ローに設置の難題で、海草振動局へ申し込みに行きました。どちらも地域の住民や自治会の方々も参加していただきました。これまで、生活相談などを通じてみなさんから要望を聞き、議会を取り上げるものが多かったのですが、今回多くの住民の方々と一緒に地域要求に取り組みしてく

もよかったです。なかなかな要求がすんなり通ることは難しいものですが、どれも人権にかかわる大事な問題で、粘り強く訴えていきたいです。



井本ゆういち

潮流

23.2.5 藤原 麻衣子 著「戦前の日本」

たまたま首相の周知からあつた。そのころは別荘がとびだしてました。それをたどれば、同性婚を認めたら「社会が変

した。そこには自身をさぐり、女性同士の性愛についての記事が数多くあります。中世から江戸の時代にいたるまで、日本の歴史には多様な性があった。それを検証した三橋順子著「歴史の中の多様な性」は、歌舞伎の女形がもたらされたように社会や文化にも影響を与えてきたといえます。▼抑圧されたのは明治以降。男らしさを強く示すのが「産めよ増やせよ」が国から求められていきます。いまの自民党の根強く残る道徳観や家族観も、性的少数者を敵視した戦前の色に染められてます。▼「見るのも嫌だ」「同性婚なんか導入したら国を捨てる人も出てくる」。ま

たまたま首相の周知からあつた。そのころは別荘がとびだしてました。それをたどれば、同性婚を認めたら「社会が変

あつてしまふ」とした福田首相の発言です。▼秘書官の暴露はそれと問われるので、秘書官室を全員同じ考えにすると、性差別論者の政務官起用も同様ですが、つづいた人物を筆入してこぼし置きたがら、多様性を認めよう社会といっても口先だけの言い草です。▼時を同じく、国連の人権理事会は性的少数者への差別の解消や同性婚の合法化を日本に勧告する報告書を採択しました。人権の時代にあって変わりゆく世界や社会。日本にも多様な性を受け入れる土壌がありました。変わらなければならないのは個人の生き方を否定する人たちの頭の中だけだ。

赤旗 日経新聞の普及に協力を

